

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和02年07月01日

計画の名称	豊橋市における総合的な津波対策の推進（防災・安全）												
計画の期間	平成30年度～平成31年度（2年間）										重点配分対象の該当	○	
交付対象	豊橋市												
計画の目標	<p>本市は、愛知県の東部に位置し、南は太平洋、西は三河湾に面し、豊川、豊川放水路、柳生川、梅田川などの河川が三河湾に注ぎ込んでいます。</p> <p>本市が平成26年8月に公表した「南海トラフ地震被害予測調査結果（理論上最大想定モデル）」では、市域の大半で最大震度7、最大津波高は太平洋岸で19メートル、三河湾側で29メートルであり、市西部の三河湾や河川沿いの低地では津波による浸水や液状化現象の発生危険度が極めて高いと予想されています。今後、南海トラフの巨大地震が発生した場合、地震動及び津波による建物被害や津波被害、地震火災など、甚大な被害が予想されます。また、本市は「東海地震に係る地震防災対策強化地域」、「南海トラフ地震防災対策推進地域」及び「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」の指定地域となっています。</p> <p>これまで、本市は地震・津波に係る防災対策事業を中心に推進してきましたが、今後は地域強靱化の視点を踏まえた防災・減災対策を推進する必要があります。</p> <p>このような状況の中で、本計画では対策が急務となる、津波避難施設の整備、避難者対策等を推進し、災害に強い都市を目指します。</p>												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	222	A	222	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (H31末)	最終目標値 (H31末)
1	梅敷地区における津波防災センターの整備により一時避難困難者180人（H29末）から0人（H31末）へ改善 梅敷地区における一時避難困難者数180人の改善	180人	0人	0人

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H30	H31	R02	R03	R04				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
市街地整備事業	A13-001	都市防災	一般	豊橋市	直接	豊橋市	—	—	都市防災総合推進事業（ 梅藪町・梅藪西町全域）	津波防災センター整備	豊橋市	■	■					222	—	
												小計							222	
											合計							222		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

豊橋市（防災危機管理課）で実施

事後評価の実施時期

令和2年7月

公表の方法

豊橋市ホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

津波防災センターの整備により、梅敷地区における避難困難者を解消することができた。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

特になし

○特記事項（今後の方針等）

近年、激甚化する災害に備え、さらなる防災対策を進めていく。

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	0人
	最終実績値	0人
		計画通り、事業を実施することができた